

日本新聞製作技術懇話会
広報委員会編集

編集人 辻 裕史
東京都千代田区内幸町
日本プレスセンタービル
8階 (〒100-0011)

電話 (03) 3503-3829

FAX (03) 3503-3828

<http://www.conpt.jp>

CONPT

CONFERENCE FOR NEWSPAPER
PRODUCTION TECHNIQUE JAPAN

VOL.38 No.1
2014.1.1
(通巻 223号)

日本新聞製作技術懇話会
会報 (隔月刊)
(禁転載)



目次

年頭のご挨拶	日本新聞製作技術懇話会 会長 芝 則之 ……	3
	日本新聞協会技術委員会 委員長 宮本 寿昭 ……	4
新聞協会賞を受賞して「新印刷空調システムの実用化—輪転機結露ゼロへの挑戦—」	信濃毎日新聞社 印刷局塩尻製作センター印刷部長 神林 寿享 ……	5
楽事万歳	神戸新聞社 情報技術局次長兼情報技術部管理担当部長 鴨川 泰典 ……	7
会員社レポート	富士通(株)、東和電気工業(株) ……	8
	(株)ゴスグラフィックシステムズジャパン、サカタインクス(株) ……	9
第39回年末全体会議開く	……………	10
会員消息 他	……………	10
会員名簿	……………	11

●表紙写真提供：富士フィルムグローバルグラフィックシステムズ(株)・富士山

●表紙製版：(株)デイリースポーツプレスセンター

●組版・印刷：(株)デイリースポーツプレスセンター

JANPS「2015夏」へ助走開始

日本新聞製作技術懇話会 会長 芝 則之



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

平成に入って4半世紀を経過し、それなりの時代相というものが定着してきた感じがします。一言でいえば当節は「停滞を脱し未来への展望期」とでも表現できましようか。昨年来のアベノミクスの最終的な評価はまだ下せませんが、なによりも円安株高に代表されるように日本経済の先行きに明るさが見えてきたのは確かです。さらに確固とした成長戦略を一日も早く打ち出して、経済や社会を安定させてほしいものです。

*

CONPTに目を移せば、今年も正念場であることには変わりありません。新聞発行部数は漸減し、2013年には4699万部(前年比78万部減)となりました。広告費の方は下げ止まり傾向が見えていますが、総じて新聞界・製作業界を取り巻く環境は大きく変わらないと考えています。インフラ共用化、製作経費節減の要請はなお続きます。良き時代の再来は望むべくもなく、今を生き抜く知恵と活力が求められているところです。4月にはいよいよ消費税8%への引き上げが実施されます。来年10月の10%アップ時に軽減税率「8%据え置き」を求めるのが新聞界の構えですが、まず「8%」をどう乗り切るか会員社にとって大きな関心事です。

CONPTにとっての最大のイベントはJANPS(新聞製作技術展)です。一昨年

の21回は、在京新聞5社の出展をはじめ会員各社の多大な協力を得て、成功裏に終えることが出来ました。新聞社の参加、会場内セミナー、研究機関の初出展、IFRAツアーの招請などの新しい施策がJANPSを盛り上げました。肝心の次回第22回は2015年7月20日(月・振替休日)～24日(金)の開催方針が固まっております。次回成功へのカギは、新聞社を筆頭に前回にまさる出展社数を確保することです。新技術開発によるコストカット、環境、防災にわたる魅力ある提案を新聞社に示し、まず新聞界ひいては製作業界の元気回復に結び付けたいというのが心からの願いです。

*

今年のもう一つの課題はCONPT-TOURです。昨年は「上流下流ともデジタル」と銘打ってベルリン、ロンドンの実情を視察し参加者の好評を得ました。将来への可能性としてデジタルに関心が高いのは、帰国報告会(第112回技術懇談会)に80名近い聴衆がお集まりになったことをみても明らかです。今後も一歩先を行く欧米新聞界を注意深くウオッチして行く必要があります。今秋のIFRAエキスポはアムステルダムでの開催。初夏のころにはツアープランをご案内できるかと思えます。新聞社、会員社の皆様の積極的な参加をお待ちしております。これに加え、CONPTの通常活動(国内研修会、技術懇談会)も、会員一人ひとりの仕事のヒントとなる新工場や異業種の先端施設見学、各種報告会などを実施するつもりです。今年も引き続きCONPTへのご理解とご支援をお願いいたします。

二人三脚で技術力高め疾走

日本新聞協会技術委員会 委員長 宮本 寿昭



新年明けましておめでとうございます。今年の干支の「午」は十二支の後半の始まりで、成長のピークが過ぎ、衰えの兆しが見え始めた状態を意味しているのだそうです。

新聞業界、新聞製作関連業界がそんな状態では、未来は拓けません。動物に当てはめた「馬」のごとく疾走できるよう今まで以上に奮起するしかありません。

若い世代を中心にした新聞離れなどにより、部数減少になかなか歯止めがかかりません。今年にはさらに消費税率引き上げが控えています。新聞を取り巻く環境は昨年以上に厳しくなります。

*

デジタル新聞や、それぞれが持つノウハウを生かした新事業への進出などを模索していますが、紙の新聞が収益の柱であることに変わりありません。売り上げが伸び悩む中、製作部門は上流、下流ともさらなるコストダウンが喫緊の課題になっています。

弊社(日経)でも様々な取り組みが進行しており、その中で気づいた点はいくつかありました。まずコストダウンにつながる新商品を採用するには、新聞社とメーカーの協力が欠かせない点です。現像液を使わなくて済むケミカルレス刷版の新タイプ、インキ使用量の削減につながる高濃度インキをテストしてみたところ、輪転機との相性もあるのか、いくつかの問題が発生しました。現場で改良要望

をまとめ、メーカーに対応してもらい、ようやく採用のめどがついたところです。技術開発は新聞社とメーカーとの二人三脚であることを実感しました。

もう一つは、使う側の工夫です。新聞用紙のスペックは工場ごとに異なり、メーカー側のコスト負担になっていました。その負担を軽減するため、用紙スペックを全国で統一することにし、テストを繰り返して、工場側で対応すべきは、これまで蓄積してきた技で補いました。

業務系を含めた上流部門のシステム更新はさらに工夫が必要です。開発費を引き下げるため、従来のオーバースペックともいえる機能を絞り込むので、使う側がそれに合わせなければなりません。仕事の仕方を変えたり、別の人に頼んでいた作業を自分でこなしたりする必要があります。コストを下げる以上、システムも設備も使い方に知恵がいらいます。話題のデジタル印刷機も使い方を双方で研究しないかぎり、「オフセット印刷機にはかなわない」で終わってしまうでしょう。

*

懸案だったJANPS2015の会場問題は、ビッグサイトから7月に開催できるとの回答があったと聞いています。ご尽力いただいた皆様に感謝申し上げます。新聞社も前回は出展し、一般来場者に新聞製作の一端を紹介することができました。加盟社の意向を聞いたうえで、準備に着手したいと思います。二人三脚で技術力を高め、次回JANPSで成果が披露されるよう願っています。

新聞協会賞「技術部門」を受賞して

新印刷空調システムの実用化 — 輪転機結露ゼロへの挑戦 —

信濃毎日新聞社 印刷局塩尻製作センター印刷部長 神林 寿享



「どんなに優れた輪転機も、まるで人格を持つようにへそを曲げます。そんな時、印刷現場に身を置き、感じるのは、機械は正直で、調子のいいとき、苦しい時、それぞれに表情を表すのだ—という思いです。輪転機の声の聴き、トラブルを根本から解決したいという気持ちは、印刷工場で働く者の共通の思いではないでしょうか」

昨年10月16日、鹿児島市で開いた新聞大会式典で、信濃毎日新聞社は「新印刷空調システムの実用化」で技術部門の新聞協会賞を受賞した。壇上で私は、緊張しながらこうスピーチさせていただいた。式典後、他社の方から共感の言葉を頂戴した。印刷・製作部門同士、毎晩の苦労を分かち合い、受賞と一緒に喜んでもらった気がして、うれしくなった。お世話になった皆様にお礼申し上げたい。

*

塩尻製作センターで実用化した新印刷空調システムは、電動機盤空調と輪転機内空調、局所排気の三つの仕組みからなり、従来の建屋空調とは別に、輪転機セットごとに給排気をルート化したのが特徴だ。

まず電動機盤空調は、きれいな空気を電動機盤に送り込み、ミスト侵入と温度上昇を防いで電子部品を保護する。輪転機内空調は、電動機盤で温まった排気を印刷ユニットの版胴付近などに送り、結露を防ぎながら上部へと空気を流す。局所排気は、輪転機上部に排

気口を接続し、高温、多湿な廃気を拡散させずに取り除き、冬場は熱を建屋空調に再利用する。

これらにより、輪転機ストップにつながる電動機盤故障のリスクを減らし、電子部品の長寿命化を図る。結露による水垂れトラブルを一掃し、紙面を汚す損紙を削減。全体で工場の空調コストを低減し、空調設備の小型化を実現した。

副題にした「輪転機結露ゼロへの挑戦」を実現した仕組みは、いま振り返ると、寓話にある「北風と太陽」の関係なのだと思っている。これまで結露対策と言えば、版胴に目掛けた送風が一般的だろう。トンネルの排気に使うような送風機で、紙がばたつくほど強力な風を送っても、湿気やミストを工場内に拡散するだけ。これに対し逆転の発想で、温かい空気を内部からあてて輪転機を温め、湿気を上部から直接吸い取ることで、発生条件をなくし、結露を元から断つことができた。

協会賞の審査では、特に全体の省エネ機能が高い評価をいただいた。工場の空調エネルギー削減は寒冷地でも温暖地でもそれなりに効果が見込まれ、全国各地の新聞印刷工場に広く導入可能だ。さらに、一連の実用化にあたり、息長く課題解決に取り組んだ現場のアイデアを実現したものと認めていただいて、印刷現場のいっそうの励みとなった。

*

新聞大会後も、見学申し込みや問い合わせが増えている。その際、お祝いの言葉と一緒に聞かれるのは、「どうやって思いついたの

ですか」という質問だ。「いろいろと試したのですよ」と答えている。気の利いたエピソードは浮かばない。あえて言えば、やはり目の前の課題を解決したい—という強い思いを持ち続けたことだと思う。

電動機盤空調は、電装品トラブルで何度も痛い目を見た印刷局技術室が、こうすればなくなるのに—と温めてきたアイデアだ。輪転機内空調は、塩尻製作センターで、水垂れの度に損紙削減のため走る部員の作業負担を減らしたいと工夫してきた成果だ。局所排気は、本社総務局総務部施設管理課が、所管の建屋空調の大きなエネルギーをどう削減するか考え続けた。それらが一昨年の輪転機1セット更新を機に、ひとつにつながった。

また、システムの効果で一番関心をもたれるのは、工場空調全体の省エネのようだ。製作センターでは、秋口まで輪転機へ送る風量などの調整を続けた。輪転機内の結露を確実に防ぎながら、さらに省エネを進めるため風量をどこまで絞れるか。運用によって実際の電力使用量は変動する。冬場に入り、局所排気で集めた熱量の再利用が始まり、省エネ効果の高まりに期待している。

一方、輪転機内結露の一扫については、「うちの工場では結露がない」という声も届く。うらやましい限りだ。空調では除湿が一番多くの電力を使い、工場全体の電力費の中に占める割合は多い。新印刷空調システムは、大掛かりな除湿に頼らず結露を防ぐところがミソだ。除湿電力費を含めて比較すると、新印刷空調の省エネ効果はより分かってもらえると思う。

*

新印刷空調の実装は、空調設備の新菱冷熱工業株式会社、輪転機の株式会社東京機械製作所と弊社の3社で成し遂げた。要となった空調制御は、施設管理課と新菱冷熱工業が協力してデータ取りし、試行錯誤してノウハウを確立した。東京機械製作所は、電動機盤の

メーカーとともに、未経験の部材加工や改造に取り組んでもらった。

独創的なシステムとして、完成度は高いと自負している。多くの新聞印刷工場に広がれば幸いだ。さっそく導入を探りたいと、他社工場の技術部から問い合わせをいただいている。

システムは、細部の改良がさらに進むことで、効率が高まり、投資コストも下がるだろう。塩尻製作センターでの実装過程でも、一昨年末に稼働した新しい輪転機で造り上げたシステムを検証し、改良を加えて昨年夏までに既設2セットを改造した。

一連の工事では、空調専門業者が果たした役割が大きい。次のステップでは「空調は建屋の仕事」といった従来の発想から転じて、輪転機・電動機盤メーカーが、より多くを担っていただきたいと思う。最初からシステムを取り込んで設計製造できれば、スムーズな導入につながるのではないか。メーカー、業者が協力し、競い合い、よりよいシステムとして磨かれ、トラブルのない新聞オフセット輪転機の進化形が実現するのを夢見ている。

*

新聞協会賞受賞をきっかけに、他社との交流が広がった。うれしい副賞といえる。北から南から新聞印刷工場の仲間たちが見学にみえ、案内しながら感じるのは、実物を見てもらう重要さだ。輪転機セットごとに連なるダクトの列を眺め、輪転機のそこここから吹き出す風に手を当ててもらおうと、仕組みをよく納得してもらえる。

「この技術が、同じ課題を抱える全国の新聞印刷工場のお役に立てるとしたら、これほどうれしいことはありません」。受賞スピーチの結びで述べたのは、本心からの願いだ。さらなる貢献を目指し、新たな課題に取り組む決意を胸に、多くの皆さんとの交流をとて楽しみにしている。

楽事万歳

駅伝の魅力

神戸新聞社
情報技術局次長 兼 情報技術部管理担当部長
鴨川 泰典



毎年、駅伝シーズンを楽しみにしている。

駅伝に興味をもったのは小学校高学年のころだ。

神戸新聞の運動面で全国高校駅伝の記事を読み、「駅伝」という名に違

和感を覚えた。

当時は周りでだれも分からず、いつしか疑問は忘れてしまった。この原稿を書くにあたって、駅伝の由来を調べた。飛鳥時代から奈良時代にかけて構築された交通、情報伝達システムであった。中央と地方を結ぶ幹線道路に、30里ごとに置かれた中継所を「駅」といい、宿泊施設や人・馬が配置されていた。駅で用意された馬を乗り継ぎ、次の駅まで行く仕組みを利用して情報を伝えた。この仕組みが「駅制」と「伝馬制」。これが由来らしい。

*

駅伝のレースでは、特に高校駅伝と都道府県対抗駅伝に心惹かれる。兵庫県代表のチームが常に好成績を収めることもあるが、どのチームも郷土の代表として誇りをもって走る姿がいい。学生時代は京都に下宿していたので、都大路の沿道で応援した。中継地点の手前で観ているのが心地よかった。最後の力を振り絞って走る選手の息遣い、次の走者の叫ぶような励ましの声、たすきと気持ちがつながる瞬間、たすきを受け取り元気に駆け出す後ろ姿、走り終えた選手の脱力感など、数々の感動する場面が短時間のうちに味わえる。最後の選手が見えたときは、沿道から一段と大きな拍手が湧き上がり、温かい声援が送ら

れる。無事、たすきを渡すと周囲に安堵感が広がる。

「個」より「和」を重んじる日本人らしさを表現するスポーツ。それが駅伝だ。選手はメンバーを思いやり、支え合い、認め合うことでチームの団結力を高めようとする。特に都道府県対抗駅伝では、その言動が顕著に出る。社会人選手は郷土のユニフォームを着ると初心に戻り、チームの雰囲気作りを率先して行うようだ。レースでは中学生選手からたすきを受け取った社会人選手が中学生に「よく頑張った」と頭を撫でる場面に心を打たれる。先達の後世への願いが受け継がれて、今がある。「たすき」がその象徴だ。だから、選手は自然にたすきをつなぐと同時に想いも伝えようとする。

*

楽天の嶋選手は東日本大震災後、初の本拠地での試合でこう言った。

「この1カ月半で分かったことがあります。それは、誰かのために闘う人間は強い、ということです」

駅伝の選手も同じようにメンバーや郷土を想って走ることが競技者だけでなく、人間としての成長につながると無意識に感じているのではないか。

私たちは、しっかりと「たすき」をつなげているだろうか。阪神・淡路大震災以降に入社した社員が半数を超えた。紙齢を絶やすまいと必死で新聞を発行した経験と、その時に多くの人に助けられ、励まされたことを伝えていかなければならない。これまで、決してひとりりで走ってきたわけではない。駅伝から学ぶことは多い。

最後に、いつかオリンピック種目として「EKIDEN」が採用される日が来ることを願っている。2020年の東京オリンピックでは、野球とソフトボールが復活する可能性があるという。「EKIDEN」も加えてもらえないだろうか。

ビッグデータの活用

「FUJITSU Big Data Initiative」

当社は、お客様・社会のイノベーションの加速に向けて、お客様、協業パートナー、ベンチャー企業とともにデータを活用するビッグデータビジネスの取り組みを強化すべく、業界に先駆けて提供を続けてきたビッグデータに関する製品・サービス群を、「FUJITSU Big Data Initiative（フジツウ ビッグデータイニシアティブ）」として新たに体系化しました。あわせて、ビッグデータ活用を支援する「ビッグデータイニシアティブセンター」を本年6月に新設しました。

「FUJITSU Big Data Initiative」は、当社の最先端テクノロジーと高度なデータ分析力に

より、データから新たな価値を創出し、お客様と社会のイノベーションを支える取り組みです。

「ビッグデータイニシアティブセンター」は、フロントセンター要員30名を核に800名体制で、お客様、協業パートナー、ベンチャー企業向けの「データ活用価値創造支援プログラム」をそれぞれ整備し、ワンストップで支援します。

当社は今後も「FUJITSU Big Data Initiative」に基づき、ビッグデータ製品・サービスをトータルに提供していくことで、お客様と社会のイノベーションの加速に貢献します。

【関連リンク】

<http://jp.fujitsu.com/solutions/bigdata/>

FUJITSU 富士通株式会社

新聞印刷輪転機の

電気工事エンジニアリング会社

弊社は新聞印刷輪転機の電気設備配線工事全般の業務に携わり、人に優しく、機械に優しく環境保全に勤める電気配線工事のエンジニアリング会社です。

弊社は昭和24年5月東京都中央区銀座5丁目10番地に東和電気工業株式会社として創立され、本年創業65年を迎えます。途中幾度かの移転を行い平成14年6月に現在の東京都中央区八丁堀1丁目7番地に移転しました。

新聞印刷輪転機の納入据付けは国内全域に広がり、配線工事の工事区域を拡大され弊社としても顧客のニーズに対応すべく、昭和30年に大阪支店事業所を設立し西日本地区の受

注工事に対応し、品質の安全確保を図りました。

今日の新聞印刷輪転機は地球環境を配慮した省資源、省電力化と変化しています。弊社の関わる電気関係も日々研究開発され進化しております。「新聞印刷輪転機配線工事メーカー」を目指す弊社としても、日進月歩の技術開発に対応し、施工業務の技術の研究開発に努め、今後の施工の効率化、エンジニアリング能力の向上を図るつもりです。またこれまでの経験と技術を発展させ安定された品質の製品をご提供し、その製品完成に関わる多くの皆様と共に新聞印刷の安定確保と紙面品質の向上に貢献し参加出来ればと思います。

最後になりますが、今まで同様皆様方のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

 東和電気工業(株)

お客様と共に創り

新しい技術をマーケットに

私たちゴス ジャパン(株式会社 ゴス グラフィックシステムズジャパン)は、最先端技術とグローバルな生産体制を誇るゴス・インターナショナルのグループ会社の一員として1972年に創業し、グループ各社との連携の下で世界の印刷機械市場に最高水準の製品やサービスを提供し、世界をリードするグローバル企業の一翼を担っています。

ゴス・ジャパンの蓄積されたノウハウと優れた技術には、例えば印刷カラー面の多様化にいち早く対応し、他社に先駆けて市場に送りだした「タワー型オフセット輪転機」をはじめ、先進技術を駆使した高性能な「デジタル

インキ装置」、「シャフトレスドライブ輪転機」、日本で初めて開発・生産した「新聞発送システム機器」などがあります。多様な新聞用、商業用輪転機や関連機器が長年に亘り世界の市場で高く評価されている事実、そして何よりも全世界レベルでの群を抜く納入実績こそが、印刷機械市場を知り尽くしたゴスグループの総合力を証明していると言えるでしょう。

ゴス・ジャパンは、これからも「お客様第一主義」を基本理念に、「お客様から学び、お客様と共に創る」真のパートナーとして、最新の新聞輪転機「カラーライナーCPS」、「マグナムコンパクト」、軟梱包印刷機「Vパック」等、魅力ある製品やサービスの提供に努め、積極的に活動してまいります。

— GOSS | INTERNATIONAL (株)ゴスグラフィックシステムズジャパン —

フレッシュな提案力で変革に応える

サカタインクス

当社は1896年の創業以来、一世紀を超える歴史の中で、常に印刷情報産業の発展に寄与すること、また、その技術革新に貢献することを最大の使命としてきました。当社のビジネステーマである「ビジュアル・コミュニケーション・テクノロジーの創造」の実現に向けて、印刷インキ事業をコアとして、分散加工技術、樹脂合成技術、画像処理技術、色彩技術などの基盤技術を活用し、新たな研究開発に努め、印刷関連分野における新規事業を展開しています。また、あらゆる事業活動において環境配慮への取り組みを推進しています。

新聞業界で、高濃度インキ化・高精細化が進む中、当社は最高の品質を実現する高発色インキ「ルーチェ」、印刷診断やCMSコンセプトづくりのご支援に関する「カラーマネジメントシステム」のご提案を行っております。

また、当社は昭和28年(1953年)に、関西新聞社七社の印刷部長の皆様とともに新聞印刷技術の向上を目的に「新聞印刷技術研究会」を立ち上げました。当研究会は、全国の新聞社のご支援を頂き、本年で60年を迎え、10月仙台開催で117回を数えました。

さらに、新聞制作現場での最重要課題である技術の継承・人材育成を目的として、平成21年(2009年)から制作現場の教育に特化した「INX新聞業界スクール」を開講し、多数の方々にご参加頂いております。

新入会のことば

日本アグファ・ゲバルト株式会社

新聞営業部 部長 佐藤克英

この度、日本新聞製作技術懇話会に入会させて頂き大変光栄に存じます。

弊社は製版・印刷業界向けのワークフローシステム、CTPシステム、CTPプレートなどの消耗材を含むグラフィックスに関わる製品を取扱うAgfa-Gevaert N.V. (本社はベルギー)の日本法人であり、本年で創業64年を迎える会社でございます。

紙媒体から電子媒体まで大きな広がりを見せるマスメディアの中で新聞社を取り巻く環境変化に対応して行くためには、そこに関わるメーカー、異業種間における新たなイノベーションが一層求められてくるものと感じております。

この流れを形成する上で懇話会の位置付けは大きく、ここに参加させていただきます意味は深いものであると考えております。

弊社が関わる新聞製作の技術領域においてはCTPシステム化も一段落し、次世代を見据えた市場が組立てられようとしております。

弊社は懇話会への参画が2度目となりますが、「心機一転」微力ながらも業界に向けて新たな風を吹き込み、ひいては懇話会の活性化に寄与できるよう努力してまいります。

ご指導、ご鞭撻のほど何卒宜しくお願い申し上げます。

第39回年末全体会議開く

CONPTの活動を中間報告する第39回年末全体会議を12月16日(月)午後4時から日本プレスセンター内で開いた。日本新聞協会から3名の来賓を迎え、会員社28社38名が出席した。

芝則之会長は挨拶の中で「懸案の次回

JANPSを2015年7月20日(月)～24日(金)に開き、次々回は3年後の2018年に開催する方針を固めた」と報告、「新しい技術で新聞界に貢献するため、素晴らしい展示をお願いしたい」と述べた。来賓の宮本寿昭協会技術委員長(日経)は、「コストカット、消費税アップなどで来年も厳しい年になるが、若い人に新聞を手にとってもらう活動で部数の減少を食い止めていく。2015年のJANPSをさらに盛り上げていきたい」とエールを送った。佐塚正樹同編集制作部長も「部数の安定が一番大切で、それが新聞界とメーカーのwin winの関係につながる」また「印刷ハンドブックを8年ぶりに改訂する作業に1月から取りかかる」との報告があった。

評議員会(副会長藤間修一氏)、クラブ委員会(委員長村松哲氏)、企画委員会(同矢森仁氏)、広報委員会(同辻裕史氏)がそれぞれ中間報告したあと議事に入り、JANPS2015年開催と2018年開催が正式に了承された。人事案件では、新クラブ委員長に平井泰之氏、同副委員長に都並清史氏(同時に評議員に)が就任することを確認した。

午後5時過ぎから懇親会を開き、藤間副会長の乾杯の発声で来賓を交えた歓談が始まった。初顔合わせの人も多く各出席者が自己紹介、その後上坂義明副会長が中締め挨拶をして1時間半余りの会がお開きになった。

(事務局)

会員消息

■担当者変更

*富士通株(12月21日付)

[新]吉田 勝彦氏(メディア営業統括営業部長)

[旧]村松 哲氏(メディア営業統括部第一営業部)

■新会友

*村松 哲氏(富士通株)

■社名変更

*コダック株は、12月1日付でコダック合同会社に社名変更しました。

日本新聞製作技術懇話会 会員名簿 (43社) 平成26年1月1日現在

社名	〒番号	所在地	連絡先
㈱インテック	136-8637	東京都江東区新砂1-3-3	03-5665-5097
NECエンジニアリング㈱	270-1198	千葉県我孫子市日の出1131	04-7185-7614
岡本化学工業㈱	335-0004	埼玉県蕨市中央2-6-4	048-432-5000
㈱加貫ローラ製作所	544-0005	大阪府大阪市生野区中川5-3-13	06-6751-1121
㈱KKS	555-0011	大阪府大阪市西淀川区竹島4-11-54	06-6471-7771
㈱金陽社	136-0082	東京都江東区新木場1-1-1 王子木材緑化ビル1階	03-3522-3600
クオード・テック・インク日本支店	336-0034	埼玉県さいたま市南区内谷3-11-26	048-839-8831
コニカミノルタビジネスソリューションズ㈱	103-0023	東京都中央区日本橋本町1丁目5番4号 コニカミノルタ日本橋ビル	03-5205-7820
コダック(同)	101-0062	東京都千代田区神田駿河台2-9 KDX御茶ノ水ビル	03-5577-1200
㈱ゴス グラフィック システムズ ジャパン	350-1328	埼玉県狭山市広瀬台2-5-15	04-2954-1141
サカタインクス㈱	112-0004	東京都文京区後楽1-4-25 日教販ビル	03-5689-6666
清水製作㈱	108-0023	東京都港区芝浦3-17-10	03-3451-1261
ストラパック㈱	221-0864	神奈川県横浜市神奈川区菅田町2800	045-475-7229
西研グラフィックス㈱	110-0016	東京都台東区台東4-29-15 上野永谷タウンプラザ213	03-5812-3681
第一工業㈱	335-0002	埼玉県蕨市塚越7-2-8	048-441-3660
DICグラフィックス㈱	101-0063	東京都千代田区神田淡路町2-101 ワテラストワー7F	03-6733-5067
田中電気㈱	101-0021	東京都千代田区外神田1-15-13	03-3253-2816
椿本興業㈱	108-0075	東京都港区港南2-16-2 太陽生命品川ビル30階	03-6718-0151
㈱椿本チエイン	108-0075	東京都港区港南2-16-2 太陽生命品川ビル17階	03-6703-8402
東京インキ㈱	114-0002	東京都北区王子1-12-4 TIC王子ビル	03-5902-7625
㈱東京機械製作所	108-8375	東京都港区芝5-26-24	03-3451-8172
東芝ソリューション㈱	212-8585	神奈川県川崎市幸区堀川町7234 スマートコミュニティーセンター15階	044-331-1096
東洋インキ㈱	104-8378	東京都中央区京橋2-7-19 京橋イーストビル8・9F	03-3272-0721
東洋電機㈱	480-0393	愛知県春日井市神屋町字引沢1-39	0568-88-6401
東和電気工業㈱	104-0032	東京都中央区八丁堀1-7-7 長井ビル6F	03-6222-5005
㈱ニコン	100-8331	東京都千代田区有楽町1丁目12番1号 新有楽町ビル	03-3216-2065
ニッカ㈱	174-8642	東京都板橋区前野町2-14-2	03-3558-7861
日本アイ・ビー・エム㈱	103-0015	東京都中央区日本橋箱崎町19-21	050-3150-0738
日本アグファ・ゲバルト㈱	141-0032	東京都品川区大崎1-6-1 大崎ニューシティビル1号館5階	03-6420-2010
日本新聞インキ㈱	108-0075	東京都港区港南1-8-27	050-3150-0738
日本電気㈱	105-8540	東京都港区芝3-23-1 セレストイン芝三井ビル	03-5476-4656
日本ボールドウィン㈱	108-0023	東京都港区芝浦4-9-25 芝浦スクエアビル11階	03-5418-6121
パナソニックシステムネットワークス㈱	224-8539	神奈川県横浜市都筑区佐江戸町600番地	045-938-1613
㈱日立製作所	140-8573	東京都品川区南大井6-26-3	03-5471-2141
富士フィルムグローバルグラフィックシステムズ㈱	106-0031	東京都港区西麻布2-26-30富士フィルム西麻布ビル	03-6419-0421
富士通㈱	105-7123	東京都港区東新橋1-5-2 汐留シティセンター	03-6252-2625
富士薬品工業㈱	176-0012	東京都練馬区豊玉北3-14-10	03-3557-6201
方正㈱	140-0014	東京都品川区大井1-24-5 大井町センタービル	03-5746-2651
ボッシュ・レックスロス㈱ サービスシステム事業部	150-0002	東京都渋谷区渋谷3-6-7 ボッシュビル渋谷3階	03-5485-7240
三菱重工印刷紙工機械㈱	144-0033	東京都大田区東糞谷4-6-32	03-3744-2951
三菱製紙㈱	130-0026	東京都墨田区両国2-10-14両国シティコア	03-5600-1475
ミューラー・マルチニージャパン㈱	174-0042	東京都板橋区東坂下2-5-14	03-3558-3131
明和ゴム工業㈱	146-0092	東京都大田区下丸子2-27-20	03-3759-4621

CONPT